



## FF奈良のさらなる発展に向けて

会長 仮家正剛

FF奈良にとって本年度は外部的な要因もあって、奈良クラブの創設者で長年会長を務められた大西さんが退任され、期せずして懸案であったクラブとしての新しい体制でのスタートとなりました。

近年、FFを構成する世界の多くのクラブが会員の高齢化問題に直面し、単一クラブでのフルメンバーでの交換が難しくなり、また交換の形も大きく変化しようとしています。私たちの奈良クラブは現時点ではまだ比較的若い状況を保っているとは思いますが、早晚同じような課題に直面することは容易に予想されます。

このような状況を踏まえて、私としては現会員の皆さんがますます元気に活躍して頂き、楽しんで頂ける環境を維持しつつ、私達の後に続く新しい会員層の発掘、育成を図り、クラブの活性化を図る必要性を痛感します。そのためには時代の流れに即応しつつ、交換形態の変化への適切な対応、また新しい局面として、地域社会との連携を模索するなどあらゆる事態に柔軟な発想で対応できるクラブでありたいと願っています。

それと同時に昨年来取り組み始めた次世代を対象とする準会員制度への具体的取り組みも着実に推進し、試行錯誤は重ねるでしょうが、将来に備えたしっかりした基盤作りに繋がればと思っています。

留学生の受け入れ等についてはFF本来の活動とは必ずしも合致するものではありませんが、会員の皆さんにとっては新鮮な気持ちを与えてくれる一つの交換形態として、従来通り積極的に取り組んでいきたいと思っています。また準会員の方達にも受け入れやすい体験になろうかとも思います。現に私とっても過去二回の中国の学生(本土と香港から)は強い印象を与えてくれた思い出になっています。

また台湾、韓国など近隣諸国との交流も昨今の国際情勢を鑑みる時、FFの活動ならではの相互理解を広げる絶好の場として捉え、積極的に企画していければと考えています。一方クラブ内においては会員相互の親睦、信頼関係を深め、また活動の幅を広げる有効な手段としての同好会活動なども積極的に支援していければと思っています。

設立以来大西さんを中心に培ってきた奈良クラブの伝統を維持しつつ、皆さんのご協力を得て新たな転換期に対応し、新たな展開に向けて微力ながらお手伝いできればと思います。

## Annual event

- 1月31日(日) 総会・新年会(とみの里)
- 2月14日(日) 準会員制度説明会  
(西部公民館)
- 3月13日(日) 第10回 World Friendship Day  
(西部公民館)
- 7月31日(日) FFセミナー  
(生駒山ろくふれあいセンター)
- 10月29日(日) 中部ブロック会議(大阪)
- 11月12.13日(土、日) 第28回FF日本大会(埼玉)

## 受入れ

- 6月15日～21日 トルコ Denizli Club  
(6月10～12日の間で調整中) デラウェア大学生
- 10月24～26日 カナダ Niagara Club  
(Stopover)

## 渡航

- 9月26日～10月4日 トルコ Karsiyaka Bay Club
- 10月4日～10月9日 ルーマニア Brasov Club  
(Stopover)
- 8月18日～ ニュージーランド 語学研修

## 2016年度新役員



準会員制度のスタートに伴い、「次世代」担当を新設、「HP」担当を元の「広報」に変更、前年度までの「広報」と「交流」を合体して「渉外」と名称変更しました。

役割分担		新役員
役職	内容	
会長	クラブの公式代表として対外折衝に当たる。 総会・役員会の主宰。役員任命。 日本大会・ブロック会議に代表として出席。	仮家 正剛
副会長	会長不在時の代行、会長と共に理事会の中心的役割を担う。 他の役員や世話人を助ける。理事会・例会の主宰及び議事進行。 日本大会・ブロック会議への出席。他クラブとの折衝。 新会員のリクルート及びサポート。	内田 堯子 佐々木 啓子
事務局	組織内の連絡業務。理事会の議事録作成。 会員名簿の作成管理。各種情報管理。会員の相談窓口。	樋室 富佐子 吹田 栄子
会計	クラブの全体予算及び渡航・受入の予算作成。 入出金及び送金の業務。帳簿管理。銀行口座管理。	高尾 ハツ子 乾 真理
交換	F F Iからの交換割り当てに対する遂行。E Dの任命。 受入・渡航の企画提案。	山足 和生
渉外	対外広報活動。マスコミ対応。 奈良市近郊に在住の外国人との交流窓口。 留学生受入れ窓口。	吉川 利文 西井 昭子
広報	ニュースレター、ブログ、アニュアルレポートの作成。 ホームページの維持・管理。受入・渡航の葉作成。	道上 恵子 浅田 喜美子
イベント	W F Dや受入時の催事、新年会等の公式行事の企画・実行。	阪井 敏江 畠中 愛子 濱田 延子
次世代	次世代育成。準会員窓口。準会員を対象とする行事の企画実行。	池上 世子 浦林 直子
監査	会計監査	辻井 良行
顧問	会の運営に対して適時アドバイスを行う。	大西 弘

新入会員メンター : 内田 堯子、佐々木 啓子、樋室 富佐子、浅田 喜美子



## 今後のFF奈良に期待する事

大西 弘（前会長）



2001年4月15日、FF奈良は日本で23番目のクラブとして誕生しました。定年直後に偶然知ったFFとの出会いが私の運命を変えました。FFの理念に共感し、無我夢中でFF奈良の設立に奔走し、設立に漕ぎつけたのが昨日のように思い出されます。それ以来FFの活動は私のライフワークとなりました。

最初の5年間はFFの受入れと渡航を如何に有意義なものにするかが会員の皆さんの主要な関心事でした。その後徐々に色々なクラブ活動も生まれ、会員同士の交流が急速に活発になりました。そして、多くの会員が受入れや渡航のみならず、クラブ活動も楽しむようになりました。2010年にはFF日本の全国大会を主催するまでに発展し、FF奈良の存在感を強く印象付けました。会員の皆さんがFF本来の活動である受入れと渡航に対して常に工夫を凝らしながら有意義な交換を実現し続ける一方で、会員同士の数多くのクラブ活動を生み出し、いわばFFライフを楽しんでいる状況に私はクラブの設立者の一人として大きな誇りを感じています。

しかしながら、今から10年後・15年後の姿を想う時、皆さんは今のような元気な姿を想像する事が出来るでしょうか。それが今世界中の多くのクラブが直面している姿なのです。それ故に、私達が今まで築き上げて来た活動の基盤を絶やすことなく、元気に活動を続けるエネルギーが残っている今のうちに、将来引き継いでくれる次世代を育んで行く努力を続けるべきであると、私は思っています。

FFには世界中の人達とあらゆる障害を乗り越えて友達になり、少しでも世界平和に貢献しようという崇高な理念があります。私達はこの理念に共鳴し、活動を続けて来た以上、この活動の火が消えるのを見たくはありません。世界中の人達と友達になろうという気持ちは私達一般市民の誰しもが持っている優しい心であり、その心を世界中の人達と分かち合おうという活動は誇りに思える素晴らしい事ではないでしょうか。

FFには現在世界中に約370のクラブが存在していますが、高齢化等で活動が停滞しているクラブも多く、活性化が大きな課題になっています。一方、日本のみならず世界にはクラブの存在していない国や地域が数えきれないほど沢山あります。

私は日本をはじめ世界中の多くのクラブの人達と協力しながら、クラブの活性化のお手伝いをする事と、一つでも多くの地域にクラブを設立する努力を続ける事が、FFの理事としての私に新たに課せられた使命だと思っています。

私はFFの活動をされている会員の一人一人が大きな誇りを持ってFFの活動を続けて頂きたいと願っています。そして、多くの人達が私達の活動に共感し、一緒に活動をしてみたいと思って頂けるような素晴らしいクラブにしたいものです。奈良クラブが今後とも次々と斬新な発想で新しい活動にチャレンジし続け、FFの先駆的役割を果たして頂きたいと切に願っています。



# 準会員(Associate Member)について

## <設立の趣旨>

F F 奈良の準会員制度は2015年度の臨時総会において決定され、2016年2月に希望者を対象とする説明会を経て正式にスタートしました。

これは、F F の次世代を育成するための方策として特別に設けられた制度です。次世代とは原則として、子育て世代またはそれに準ずる比較的若い世代の人達を対象とします。

この制度は、世界中の人達との友情の輪を広げようというF F の基本理念に強い関心があるが、現状では子育てや仕事の関係で渡航や受入れの活動に深く関わる事が出来ない人達が、いずれ正会員として活動できるまで、海外の人達との交流の機会を提供し、正会員との交流を通して、徐々にF F の活動にも馴染んで頂く事を趣旨とするものです。

## <活動の内容>

- 1 F F 本来の活動である受入れや渡航は基本的には正会員に限定されるが、受入期間中の行事については活動に支障がない限り、参加する事ができる。その場合は事前に情報を提供する。
- 2 留学生等の短期ホームステイの受入れや交流については、正会員のみならず、準会員の人達にも積極的に参加を呼びかける。
- 3 また、奈良近郊に在住の外国籍の人達との交流にも正会員の人達と共に参加する事ができる。
- 4 上記の活動以外に、正会員の人達が自主的に行っている同好会やそれに準ずる活動は、支障のない範囲で参加する事ができる。但し、現実的には、人数制限や子供連れの参加が難しい等の事情で、限られた活動にしか参加できない場合もある。参加できる活動がある場合には、その都度情報を提供する。
- 5 正会員との交流の機会を出来るだけ持てるように、F F の情報を定期的に提供し、同じF F の仲間として情報を共有しながら、一緒に楽しみ、自然に世代間交流が出来るようお互いに努力する。
- 6 準会員同士がお互いの情報交換の場や自主的活動を希望する場合は、クラブとして積極的にサポートする。また、近い将来日本の各クラブにおいて、同様の制度が誕生すれば、クラブ間交流の可能性も探る。

準会員制度は新しい試みなので、まだまだ試行錯誤の段階です。これからもFF例会や役員会、準会員の方たちとの意見交換や行事を通して、正会員と準会員が徐々に融合して行けるよう努力していきたいです。

## 編集後記

今年にはFF奈良にとっては会長交代、新しく取り入れた準会員制度のスタートという、15周年にふさわしい大きな節目の年です。15年間奈良クラブを導いてくださった前会長の思い、又新会長の決意などを皆様にお伝えするのに、例年のアニュアルレポートでは遅すぎるので今回臨時に「特別号」として発刊しました。(K. M)

編集・発行 ザ・フレンドシップフォース・オブ・奈良  
広報グループ  
事務局 〒631-0004 奈良市登美ヶ丘5-2-9  
TEL0742-45-3884  
E-mail m.kariya@k6.dion.ne.jp  
HP <http://ffnara.jp>